

製品名: GCNT3 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab11360**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | ウサギポリクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | IHC, ICC/IF, ELISA |
| 反応性 | ヒト、ラット、マウス |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | 未修正 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | ポリクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:200-1:1000, ELISA 1:10000-1:20000

分子量

抗原情報

| | |
|--------------|--|
| 遺伝子名 | GCNT3 |
| 別名 | GCNT3; Beta-1; 3-galactosyl-O-glycosyl-glycoprotein beta-1,6-N-acetylglucosaminyltransferase 3; C2GnT-mucin type; C2GnT-M; hC2GnT-M; Core 2/core 4 beta-1,6-N-acetylglucosaminyltransferase; C2/4GnT |
| 遺伝子 ID | 9245.0 |
| SwissProt ID | O95395 |
| 免疫原 | 抗血清はヒト GCNT3 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 226-275 |

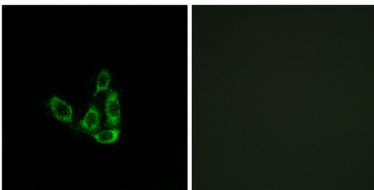
背景

この遺伝子は、N-アセチルグルコサミニルトランスフェラーゼファミリーのメンバーをコードしています。コードされているタンパク質は、ムチン型糖タンパク質上のコア2およびコア4 O-グリカンの形成を触媒する β -6-N-アセチルグルコサミニルトランスフェラーゼです。[RefSeq 提供、2009年4月]、触媒活性: $\text{UDP-N-アセチル-D-グルコサミン} + \beta\text{-D-ガラクトシル-1,3-N-アセチル-D-ガラクトサミニル-R} = \text{UDP} + \beta\text{-D-ガラクトシル-1,3-(N-アセチル-}\beta\text{-D-グルコサミニル-1,6)-N-アセチル-D-ガラクトサミニル-R}$ 。、触媒活性: $\text{UDP-N-アセチル-D-グルコサミン} + \beta\text{-D-ガラクトシル-1,4-N-アセチル-D-グルコサミニル-R} = \text{UDP} + \text{N-アセチル-}\beta\text{-D-グルコサミニル-1,6-}\beta\text{-D-ガラクトシル-1,4-N-アセチル-D-グルコサミニル-R}$ 。機能:既知のムチン β 6 N-アセチルグルコサミニドをすべて合成できるグリコシルトランスフェラーゼ。ムチン型生合成における2つの重要なステップであるコア2およびコア4 O-グリカン分岐を媒介する。また、直鎖状ポリ-N-アセチルラクトサミノグリカンを分岐鎖状ポリ-N-アセチルラクトサミノグリカンに変換することでI-分岐酵素活性を持ち、胚発生中に血液型I抗原を導入する。誘導:オールトランスレチノイン酸 (ATRA)、TNF- α 、およびIL-13による。大腸がんにおいて強くダウンレギュレーションされている。、オンライン情報:コア2/コア4 β -1,6-N-アセチルグルコサミニルトランスフェラーゼ、オンライン情報:GlycoGene データベース、経路:タンパク質修飾;タンパク質グリコシル化。、PTM:N-グリコシル化。、類似性:グリコシルトランスフェラーゼ14ファミリーに属する。、組織特異性:主に粘液分泌組織で発現する。ムチンが産生される大腸、腎臓、小腸、気管、胃で発現する。、

研究分野

O-グリカンの生合成

画像データ



GCNT3抗体を用いたA549細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。